

# 野の 甫ほ 大橋



路線名	一般県道田名野甫線
規格	第3種3級
架橋位置	起点側：伊平屋村島尻（伊平屋島）
	終点側：伊平屋村野甫（野甫島）

橋種	PC5径間連続変断面箱桁橋
橋長	320.0m
設計速度	40km/h
有効幅員	車道7.25+歩道3.0 (m)
支間割	54.25+3@70.0+54.25 (m)
平面線形	R=∞
架設工法	片持ち張り出し架設
クリアランス	W=12.0m H=6.45m (航路指定なし)
設計荷重	B活荷重
塩害区分	A-(I)
地質概要	最上層の沖積層は海浜砂、珊瑚礫を主体とする海浜砂礫層、その下層の洪積層は前泊層の砂礫及び粘性土からなり、基盤である砂岩は支持層となりうる
事業費	約42億円

旧橋は、幅員4.0mの1車線道路で幅員が狭く、道路の高さが低いため波浪の高い時には波をかぶるなど道路交通に支障がある他、PC鋼線の破断等、橋梁の損傷も著しかった。新野甫大橋の完成により、地域住民の生活不安の解消、地域の産業・経済・教育・文化等の発展に寄与している。

年月日	事項
昭和47年～ 昭和53年 平成11年度	(旧)野甫大橋(橋長L=62m、海中道路部L=450m、幅員W=4m)工事着手及び完成 旧橋の塩害の進行及び幅員狭小による片側交互通行、荒天時の越波による通行規制等を解消するものとして新橋(県道田名野甫線道路改築事業)の整備に着手
平成12年度 平成13年度～ 平成14年度	橋梁本体の下部工着手 取付道路及び上部工着手
平成15年度	取付道路の舗装及び橋梁の橋面工施工により 工事完成
平成16年3月25日	開通

**野甫島の概要**

位置：那覇市より北方約117km

人口：100人(平成28年)

世帯数：50世帯(平成28年)

面積：1.06km<sup>2</sup>

周囲：4.8km

島では、サトウキビの他、米も生産されている。ウミガメが産卵する砂浜があり、360度全方向に美しい色の海の雄大な景観が広がる。



伊平屋島・野甫島全景



親柱

**野甫大橋の特色**

- 1 上部工は、変断面箱桁であり、海上での場所打ち施工が可能となるよう、移動作業車を使用したカンチレバー工法(片持ち張出架設)を採用している。
- 2 反力分散ゴム支承を採用することにより、地震時水平力を各下部工に分散させ耐震性を高めている。
- 3 基礎工は、支持層が深い(55m～70m)ということと、最大径15cm程度の礫を含む厚い中間層が存在するため、場所打ちの摩擦杭(35m～44m)を採用している。
- 4 本橋の架橋位置は最上級の塩害対策が必要とされる地域であること、旧橋梁の劣化状況を考慮して恒久的な耐久性を保つ塩害対策として鋼材のかぶりを十分に確保し、エポキシ塗装鉄筋、エポキシ塗装PC鋼材、ポリエチレンシーすを使用している。



伊平屋島

野甫島

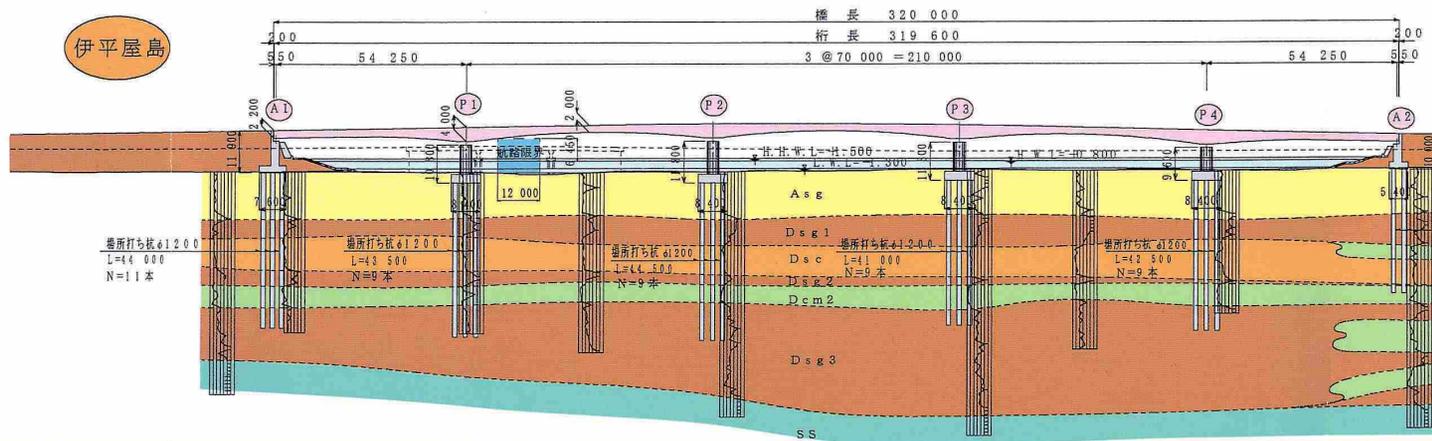
側面



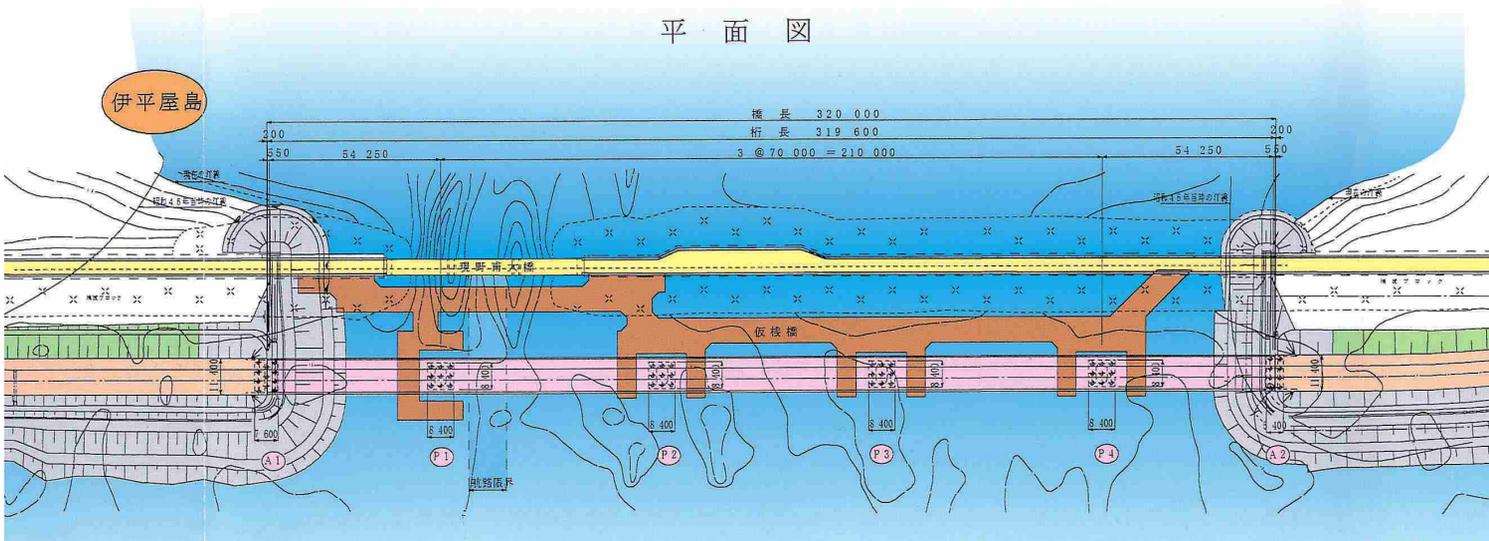
正面(野甫島から伊平屋島向け)

# 計画一般図

## 側面図



## 平面図



### ●旧野甫大橋の塩害

旧野甫大橋（昭和53年度完成）は道路高さが低く、波浪時に越波、砂の堆積による通行障害があり、完成から20年経過した時点で塩害による劣化損傷が大きかった。更に道路幅員の狭小（4.0mの1車線）、架橋による北側砂浜の減少、南側海域の砂の堆積による珊瑚の生育低下等の問題があり、平成12年に新野甫大橋の架け替えが行われた。

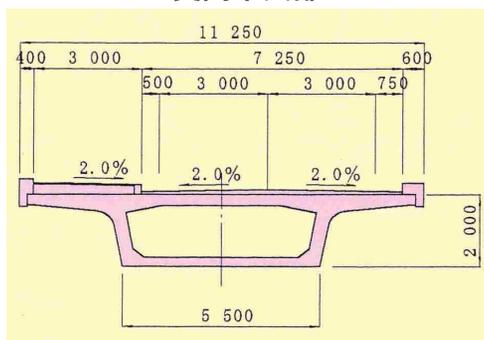
新野甫大橋は、万全な塩害対策を講じ、環境面では海亀の産卵場でもある北側砂浜、周辺海域の珊瑚礁群の環境保全も検討して計画、架橋された。



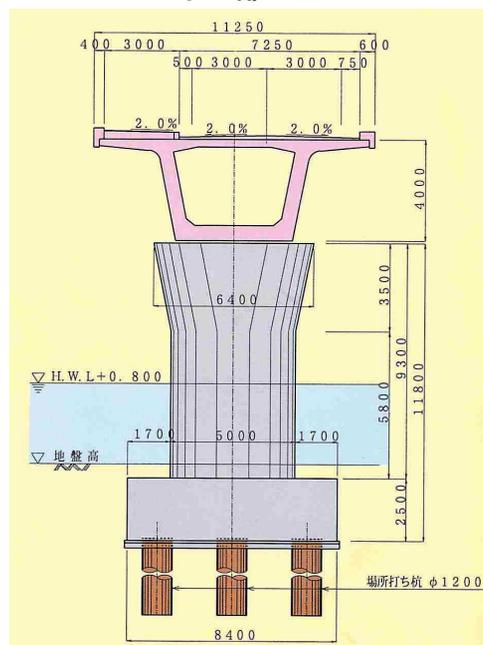
旧野甫大橋の塩害状況（平成11年11月撮影）

## 標準断面図

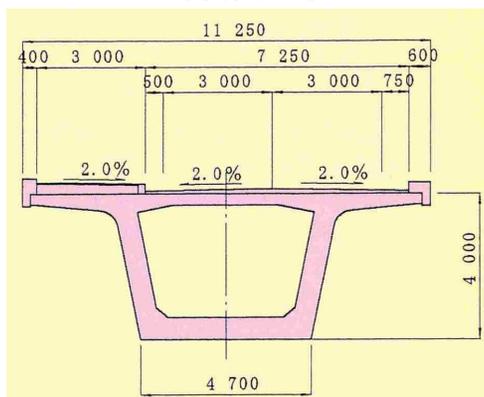
支間中央部



下部工



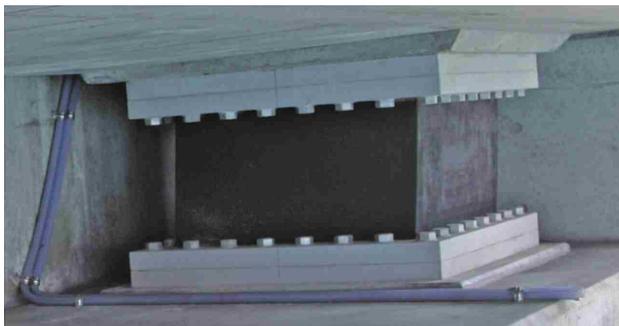
中間支点部



### ●構造形式

上部工形式	PC5径間連続変断面箱桁橋	
下部工形式	橋台：逆T式	2基
	橋脚：壁式（小判型）	4基
基礎工形式	A1、A2橋台：場所打ち杭φ1200 P1～P4橋脚：場所打ち杭φ1200	

### ●新野甫大橋



反力分散ゴム支承



上部工変断面箱桁



野甫島

伊平屋島

側面

